

五月例会御案内 (平成二十年)

財団法人 協和協会

△会長 塩川正十郎

○御案内

五月二十八日(水) 正午～二時半 参議院議員会館一階 第一会議室 (第五七八回)

講題 日本外交のあり方——外交力の弱さはどこからくるのか——
講師 矢田部厚彦先生(駐ヴェトナム・駐オーストリア・駐ベルギー・駐フランス大使歴任)
近年、外務省でも不祥事が発生したこともあり、また、日本の外交力そのものに問題があるのではないかと、報道や評論、あるいは世論も、問題視している傾向があります。

そうした折、頭記のように、駐フランス大使など各国大使を勤められた矢田部厚彦先生が、外交官の大先輩として、そうした状況を憂えられ、そこで、近代国家成立の明治時代から現代にいたる外交史を繙き研究された上、これからの日本外交のあり方について、いろいろと提案をされておられることを知りましたので、ここは、ベテラン外交官として活躍されたお立場から、日本の外交力の弱さが、一体どこからくるのか、問題提起・御解説をいただき、その上で意見交換し、参加者一同にて、日本外交のあり方を検討いたしたいと思えます。重要な課題、奮っての御参加、お待ち申し上げます。(清原記)

○ 当日の会費 四千元(昼食の準備もあり、前日までに欠の御連絡をいただきました)

□御報告

去る四月二十五日の月例会は、「世界最強の日本文明の再発見・活用を提案する！」と題し、経済アナリストの増田悦佐先生に御講話をいただきました。その概要は、日本人は、現在の日本に悲観的になっているが、日本には他国にない優れたものを持っている。その基本として、国際収支で見ると、日本の経済的地位は益々高まっている。また、日本経済のエネルギー変換効率から見ても、日本はすでに一九六〇年代に、欧米諸国よりはるかに高い変換効率を維

持している。文明の栄枯盛衰は、エネルギー変換効率で決まる。その象徴となるのが、東京はじめ都市部における鉄道網の整備で、大都市圏への人口移動と経済成長率は相関関係にある。大都市集客率から見ても、新宿、池袋など日本の四地域が世界でも最高である。また各都市が新幹線によって結ばれており、これこそが、日本の国際競争力の核心を成している。したがって、都心拠点駅の地下街を一層開発し、世界一利便性の高いネットワークを持つ鉄道網を一層拡大し、さらには、それらの都市をリニア新幹線で結ぶことこそ、日本発展の鍵となる、と説かれ、質疑応答も盛んでした。会員一同、これまでの発想を転換する必要を、痛感しました。

▽ 当(財)協和協会は、「各界の志ある指導者・経験者が、党派・利害・打算を超えて、真に国家的見地から、我が国立国の基礎をなす諸課題を検討して、世の中に貢献しよう」との趣旨にて、昭和四十九年、岸信介元総理によって創設された財団。第二代会長は福田赳夫元総理。第三代会長は櫻内義雄元衆議院議長、そして、平成十五年十月七日、塩川正十郎元財務大臣が会長に就任しております。なお、平成十四年夏から、理事長に、半田晴久が就任しております。会員は、政・財・官・学・民各界の有志がバランスよく集まっています。国会議員・同秘書は随時参加自由。この月例講話のほか、内部には、十五ほどの専門的な部会・委員会があり、これまでに、政府へ提出した意見書・要請書は、百二十五本に達しております。

事務局電話(03) 3581-1192 専務理事兼事務局長・清原淳平、重田、高津、古瀬

◎ 添付のハガキ、または、FAXにて、前日までに、頭記月例会への御返信をいただきました。

▼ 事務局FAX(03) 3507-8587

御芳名

貴方様のFAX番号

五月二十八日(水) 出 欠 (いずれかに○印——昼食弁当を用意するためにも)